



世界一クールな街 神保町

校長 伊藤 栄司

梅のつぼみがほころび始める季節となりました。寒さの中にも春の気配を感じるこの頃、子どもたちは元気に学び、遊び、日々成長しています。2月は14日に道徳授業地区公開講座を予定しています。この取り組みは平成10年から始まり、学校、家庭及び地域社会が一体となって子どもたちの豊かな心を育むとともに、道徳教育の充実を図ることを目的としています。

もっともクールな街

昨年末、神保町は、世界的な情報誌（タイムアウト※）によって「世界で最もクールな街」に選ばされました。古書店街としての歴史と文化、個性豊かな飲食店、そして地域の温かいコミュニティが高く評価された結果です。

タイムアウトは、世界に広がる編集者やライターによる推薦をもとにまとめられていて、選定された街は文化やコミュニティ、住みやすさ、飲食物、さらに「定義が難しい今らしさ（ナウネス）の感覚」などの基準に照らしてランキングされています。ちなみに2位はベルギー・アントワープのボルゲルハウト、3位はブラジル・サンパウロのバラ・フンダとなっています。名だたる国々を押さえての1位はとてもすごいことです。

ペリー来航がきっかけ

神保町に古書店街ができた経緯はペリー来航に遡ります。江戸幕府はペリー来航を契機に外交・軍事面の強化を痛感し、対策として洋書を扱う機関を設置しようと考えました。そこで、現在の如水会館のあたりに「洋書調所」をつくったことがきっかけと言われています。

「洋書調所」は明治元年、開成学校（後の東京大学）と名称を変え、外国人教師による英語・フランス語・ドイツ語等の授業が行われました。また、同じ時期に東京商業学校（後の一橋大学）や開成学校から分かれてできた東京外国語学校ができ学生の街となりました。

明治10年代になると国立の学校の多くは他の地域に移設しましたが、代わって専修大学・中央大学・明治大学・日本大学の前身となる法律専門学校や外国語学校が周辺に開校し、学生の教科書需要から古書店が増えました。

その後、大火や震災を乗り越え、戦後には出版社や製本所が集まり、現在では約130軒の古書店が並ぶ「知の街」として世界に知られるようになりました。伝統と新しい文化が共存する学びと出会いの場になったのです。

地域の見守り

街の魅力ランキングの基準に住みやすさやコミュニティといった人々の温もりを感じさせる項目があるのも嬉しく思います。学区内の地域の皆様と同じように、神保町では、子どもたちが登下校する姿を見守ってくださっています。また、年末には夜警を行い、防犯・防火に努めるなど、街全体で安心・安全を守る取り組みが続けられています。さらに、お祭りや各種のイベントなど温かいまなざしに包まれ、子どもたちはのびのびと成長しています。

3学期中には、3年生が町の見学として古書店街を散策予定です。世界一として認められた文化や伝統、人々の温もりを肌で感じる学びになると期待しています。

※「グローバルメディア タイムアウト（Time Out）」とは、1968年ロンドン発祥の、地域密着型シティガイドのグローバルメディアブランドで、ローカルエキスパートが編集する旬な情報を、ウェブやアプリ、雑誌などで世界中の都市（333都市・59カ国以上）に発信しており、旅行者から地元の人まで、その都市ならではの「体験」を提案しています。